

花粉症188例自他覚症状総括

		辛温群 (51)	辛涼群 (49)	混合群 (54)
初発日		2月12日±12日	2月27日±9日	2月21日±9日
他季節花粉症		春以外にもある (56.9)		
合併症		合併症あり (90.2)		
自覚症状	鼻腔症状			
	鼻汁性状 随伴寒熱 鼻汁好発	早朝や午前中に鼻汁が出る (70.6) 寒冷の刺激で鼻汁が出る (60.8)	粘性鼻汁 (28.6) 鼻汁時ほてり (69.4) 温暖の刺激で鼻汁が出る (44.9) 重い鼻づまり (65.3)	鼻汁時ほてり (48.1) 寒冷の刺激で鼻汁が出る (40.7) 重い鼻詰まり (44.4)
	鼻閉			
	眼症状 結膜 眼瞼		結膜充血 (65.3) まぶたがはれる (32.7)	
	咽頭症状 咽頭痛		のどの痛みがある (63.3) 重いのどの痛みがある (32.7) 冷たい水をほしがる (32.7)	
体質	口渇			冷たい水をほしがる (20.4)
	肺	かぜをひきやすい (76.5)		かぜをひきやすい (53.7)
	寒熱	冷え症 (78.4)	暑がり (42.9)	冷え症 (64.8)
	胃腸	胃腸不調がある (68.6) 常に胃腸不調 (47.1)		胃腸不調がある (53.7)
季節	夏季に体調がいい (66.7)	冬季に体調がいい (32.7)	夏季に体調がいい (55.6)	
他覚所見	舌所見			
	舌質	淡紅色の舌 (74.5) 淡白色の舌 (19.6) 肥大舌 (47.1) 薄白の苔がある (68.6)	紅色の舌 (53.1)	紅色の舌 (27.8) 淡紅色の舌 (59.3)
	舌苔		薄黄の苔がある (32.7)	
	咽頭所見		のどが赤く腫れる (93.9) 重いのどの腫れ (46.9) 軽いのどの腫れ (46.9)	のどが赤く腫れる (72.2) 軽いのどの腫れ (61.1)
	眼所見		眼球結膜の充血 (55.1) まぶたの結膜の充血 (46.9)	眼球結膜の充血 (27.8)
	皮膚所見	皮膚が白い (70.6) 顔色があおい (49.0)		皮膚が白い (50.0) 顔色があおい (35.2)

われてきたのです。しかし、ここに誤りがありました。花粉症の患者さんの中には透明な鼻水は出るが、そのほかの症状は熱証を示している人も多いのです。それが辛

涼群に入る患者さんなので「二浦先生」辛涼群の患者には体を温める小青竜湯などの薬は効くわけがなく、その反対の体を冷やす薬が必要と

なるのです。では、辛温群や辛涼群ではそれぞれどのような症状が見られるのでしょうか。「辛温群には虚弱な体質の患者さん

があてはまります。カゼをひきやすい、冷え症である、胃腸が弱い、夏になると体調が良くなるといった症状が特徴です。鼻水は、寒い早朝や午前中によく出て、寒冷刺激を受けても盛んに出るようになります。しかし、ひどい鼻づまりや喉の痛みはありません。

一方の辛涼群には元気な患者さんがあてはまります。鼻水が出るが、顔面や体のほてり感もある。目が充血する、鼻がつまる、喉が痛い、喉が赤くはれる、暑がりといった症状がその目安です。こちらは温暖になると症状がよく出る傾向があります」(三浦先生)

辛温群の患者は表だけでなく、通年で症状が出る人が多く、消化器疾患などの合併症がある人も多くなります。また、混合群は体質的には、カゼを引きやすい、冷え症である、胃腸が弱いといった辛温群と同様のものがあります。ほてる、鼻がつまるといった辛涼群と同様の症状も見られます。そのほか、他覚所見として舌の様子なども群によって違いが見られます。詳しくは、表を参照して自分がどれにあてはまるか考えてみてください。

小青竜湯や清上防風湯などを使い分ける

自分がどれにあてはまるのかあ